

日本 AALA 代表理事 田中 様、

事務局長 野本 様、

ご出席の皆様

こんにちは

1950年代後半より反アパルトヘイト運動に取り組んできたこの組織のみなさまの前で講演をさせていただくことをとても光栄に思います。きょうの講演のテーマは、南アフリカ共和国で、初めて民主的に選ばれた大統領について『自由への道 - ネルソン・ロリシュラ・マンデラの遺産』と題してお話しします。

国の民主化を成し遂げた父の生誕100周年を祝う一部となります。この100周年にあたり、南アフリカおよび世界の人々に、彼の人生と時代を反映させ、マンデラの遺産を広く知らせる特別な機会を与えてくれます。

南アフリカ共和国のシリル・ラマポーザ大統領と平和を愛する南アフリカ共和国からも皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

本日皆様の前に立ち、常に平和を愛する政治家であったネルソン・ロリシュラ・マンデラの人生を祝うことはとても光栄で誇りに思います。マンデラは平和そのものでした。

ネルソン・ロリシュラ・マンデラは、南アフリカの反アパルトヘイト革命家であり、政治のリーダーであり、1994年から1999年まで大統領を務めた慈善家でもありました。彼は初の黒人大統領であり、初めて全民族による民主的選挙により選ばれた大統領でした。

彼の政府は、制度化された人種主義に取り組み、人種の和解を促進することによってアパルトヘイトの遺産を解体することに焦点を当てました。理想的には、アフリカの民族主義者および社会主義者であり、1991年から1997年にかけてアフリカ民族会議（ANC）の議長を務めました。

この偉大な人物からインスピレーションと知恵を引き出すことが重要です。タタ（父）マンデラは他者の自由のために戦い、個人的な利益を犠牲にしました。

彼の犠牲を尊重する最善の方法は、彼の謙虚さと誠実さを見極めることです。今年、南アフリカと国際社会は、「遺産になる」というテーマでマンデラの人生を祝います。

国際的象徴であるネルソン・マンデラについて100周年記念の講演をすることは容易な役目ではありません。国際的象徴のお祝いは、南アフリカと世界の人々にとって大きな行事です。

2009年11月、国連は7月18日をネルソン・マンデラ・インターナショナルデー（マンデラ・デイ）と宣言しました。毎年この日に、南アフリカの政治の垣根を超えて、また世界中で67分間の奉仕活動を行い、世界の人々に貧困と戦うように動機づけるものです。

67分間というのは、マンデラ（マディバ）が他者のために費やした67年間にちなんでいます。

100周年の祝賀は、マディバのウブントゥ精神を、人種、信条、方向性に関わらず集团的統一を推進するものです。

マディバは世界に無私無欲を示した偉大なリーダーでした。彼は平和を達成しようと努力し、何が許しであるかを示し、すべての人の正義と平等を確実にしようとしました。

マンデラの人生

ネルソン・マンデラは、1918年7月18日、現在の南アフリカ共和国東ケープ州にある、トランスカイ（当時）に生まれました。1910年5月31日に南アフリカ連合が制定されてから8年後のことです。

アフリカ連合の形成は、その後80年間にわたり、政治的混乱に国を巻き込みました。

1912年のSANNC形成、1923年にはブルームフォンテーンにてANCと名前が変わり、新しいANCはアフリカ人の土地を奪還するという目的を掲げてつくられました。

政治の動きから遠く離れたところで、祖先の土地がマイノリティのアパルトヘイト政府により取り上げられるという圧迫の時代に、ネルソン・マンデラはテンブ族の長老たちに育てられました。

アパルトヘイト政府による1913年原住民土地法は、土地の取得を規制することを目的としていました。同法は、白人はごく少数の民族であったにもかかわらず、アフリカ人たちを南アフリカ全土の13%に閉じ込めることを目的としていました。

ネルソン・ロリシュラシュラ・マンデラはメソジスト・ミショナリー学校に通い、そこで担任の先生が、英国の帝国ヒーローの名前から彼をネルソンと名付けました。高校を卒業後、1938年フォートヘア大学に進学し、生涯の政治の同志となるオリバー・R・タンボと出会います。

彼らは1940年、学生の権利をめぐる争いの政治的活動をしたとして、フォートヘア大学を追放されます。

この講演をしていると、ジョン・ヘンリック・クラーク博士の言葉を思い出します。

「歴史は彼らがどこからやってきて、何者だったのか、そしてどこにいて何者でいるのかということの人々に教えてくれる。

特に重要なのは、歴史を理解することは、彼らがさらにどこに向かい、何者にならなければならないのかということを知ることです。この講演はネルソン・マンデラについて正確に伝えることを目的としています。

- ・ 1652年白人入植者が闘争を引き起こす
- ・ 9つの戦いが先住民により起こる
- ・ 土地と尊厳の防衛
- ・ 1879年 イサンドルワネの戦い勝利
- ・ 1906年 バンバタ反乱。ズールー民族の英国式ルールとナタール税法への反乱
- ・ 植民地化と自分たちの土地を採掘することへの反乱の戦い
- ・ 環境法は、決められた環境で成長増加することを指示
- ・ 役割分担を決めるということのポイントは、実際、経済的に進んでいたり遅れていたりする周辺住民の社会的結びつきの強度と質が、大人から若者に影響を及ぼします。ロール・モデルや人生コースの選択肢を選ぶことに影響を与えます。しかし、ネルソン・マンデラの人生はこれらの理論には従いませんでした。

行動主義のマンデラ

ヨハネスブルク滞在中、マンデラはヴィットヴァータースランド大学にて法律を学びました。彼は唯一の黒人アフリカ人であり、人種差別と向き合うこととなります。

彼はリベラルで、社会主義のヨーロッパ系、ユダヤ系、インド系と友人になりました。その中にジョー・スロヴォやルース・ファーストがいます。彼は段々と政治的関心を深めていき、1943年8月、マンデラはバス運賃値上げ撤回を求めてバスボイコットのデモに参加しました。

ANCに加盟し、次第にW.シスルに影響を受けました。マンデラはソウェトのオーランドにあるシスルの家で時間を過ごしました。有識者で元亡命者たちのANC代表であるORTタンボは、彼の古くからの友人でしたが、チームの一員でした。

1943年、ネルソン・マンデラは南アフリカの活動家でANC青年部の創設者兼代表であるアントン・レンベデーと出会いました。1950年、ネルソン・マンデラはANC全国区幹部のクマ氏の席を引き継ぎました。

ANC 青年部代表となる

1952年、ANCはアパルトヘイトに対して共同反抗運動を起こす準備を始めました。この運動はマハトマ・ガンジーに影響された非暴力運動に続くものとして考えられました。

1952年7月、マンデラは社会主義活動の疑いで逮捕されました。7月22日にダーバンで逮捕される前、抗議を開始する前に、一万人の観衆を前にスピーチを行いました。

1953年、マンデラとタンボは自分たちの法律事務所をヨハネスブルクの街中に開所しました。自由憲章は1955年にクリプタウンの会議で採択されました。3,000人がこの会議に参加していましたが、警察により、強制的に閉会させられました。

マンデラは、『自由憲章』を『南アフリカの人々を鼓舞するもの』としました。1956年12月、マンデラはANC全国区の幹部の多くと共に、『大逆罪』で逮捕されました。

1960年、パンアフリカニスト会議（PAC）とANCの両政党は反パス法運動を行い、その結果、シャープビル事件で抗議者69名が命を落としました。

この事件は、政府に対する国際的非難を起こし、マンデラ氏が連帯して自分のパスを燃やしている写真とともに南アフリカ全土に暴動が広がりました。マンデラはANCの新しい核となる組織をつくりながら国中を旅し、ホームストライキを計画しました。

キューバ革命のフィデル・カストロに影響を受け、1961年、マンデラ、シスル、ジョー・スロヴォは共同でウムコント・ヴェ・シズウェ 民族の槍を立ち上げました。

目的は最小限の犠牲者で政府に最大の圧力を加えるサボタージュを行うためでした。

ANCは、1962年2月にエチオピアのアジスアベバで行われる東部、中央、南部アフリカのためのパンアフリカン自由運動（PAFMECSA）へ、マンデラを代表として送ることを決めました。

ベチュアナランド経由で秘密裏に南アフリカを離れる

道中訪れた先：

- ・タンガニーカにてジュリウス・ニレーレ大統領と面会
- ・ヘイレ・セラッシー皇帝と面会
- ・カイロにてガマル・アブデル・ナッサー大統領と面会
- ・チュニジアにてハビブ・ブーグイバ大統領と面会
- ・ほかに、モロッコ、マリ、ギニア、シエラレオネ、リベリア、セネガルなどを訪問

数年後、元アメリカ外交官が中央情報省に、マンデラの組織が共産主義と恐れていたため、南アフリカ警察にマンデラの居場所を漏らしました。

1962年8月5日、警察は、現在のクワズール・ナタール州ホーウィック近くで、マンデラをセシル・ウィリアムズと共に拘束しました。1963年、プレトリアの最高裁でリヴォニア裁判が始まると、マンデラと仲間たちは、4件の政府に対する妨害と陰謀の罪に問われました。

マンデラは自分の裁判をアパルトヘイトの訴訟に変えました。なぜならば、彼の雄弁さと情熱のみならず、提唱者として訓練されてきたからです。

1964年リヴォニア裁判の中で、ネルソン・マンデラは次のように述べました。

「私は白人社会の支配にも黒人社会の支配にも反対してきました。全ての人々が調和の中で住み、平等な機会を持つ、民主的で自由な社会という理想を大切にしています。この理想のために生き、実現を目指すことができれば望ましい。けれども、必要であるならば、この理想のためには死をもいといません。」

1964年6月12日、ネルソンは終身刑を宣告され、ロベン島に27年間投獄されます。彼は数名の白人看守から言葉や身体的虐待を受けました。

皆様、

本年、マンデラの生誕100周年を祝うにあたり、私たちは彼の模範的な人生とビジョンから世界の象徴となった、そのいくつかの例をあげるとすれば、外交官からスポーツマンとしてまで幅広く世界の象徴となりました。

マディバの歴史は、南アフリカの歴史も同様ですが、国際社会の支援と援助がなければこのように大きく動くことはなかったでしょう。

この理由から私たちは日本の方たちと世界中の人々に歴史の暗い時代に自由と正義のために戦った歴史をサポートして下さったことに感謝申し上げます。日本においては、JAALAからいただいた支援にも感謝申し上げます。

ANC/JAALA 関係

秋庭稔男元代表理事ならびに瀧本えいいち元事務局長はほぼ半世紀にわたり、最も困難な時期にANCを支援する重要な役割を担いました。

ANCとJAALAの関係は1958年にエジプト カイロにて行われた第1回アジア・アフリカ諸国民会議に於いて、アジアアフリカ人民連帯機構がANCを含めて設立された時から始まりました。JAALAは会議の事務局でした。

J A A L A 東京にて最初の連帯ラリーを行い、アパルトヘイトの即効廃止と南アフリカの人々への支援を呼びかけました。

1983年、ポルトガル リスボンにて開催された前線の国々と南部アフリカ地区の国民解放と平和の連帯のための国際会議において、J A A L A の代表がORタンボと東京にANC事務所を開設する可能性について話し合いました。

1985年、南アフリカは非常事態宣言を発令。J A A L A は日本の外務省と通産省に会い、国連決議に基づき、即時経済制裁を南アフリカに行うべきと要求しました。

J A A L A は、当時のボタ南アフリカ大統領宛ての抗議文を渡すために、東京の南アフリカ領事館（当時）で抗議デモを企画しました。

1986年8月、ANCの代表エリック・ムトゥラーリが「原水協世界大会」に参加したのち、J A A L A 本部を訪問しました。この会議に、ANC代表が参加したのは初めてでした。

訪問に続き、当時のANC財務部長シコビ氏がJ A A L A に書面にてザンビアとタンザニアのANC事務所への支援を要請しました。5名の尊敬すべき日本の文化人たちがこれに応え、寄付を募り200万円集まりました。

1987年、ANCの75周年にあたる年、J A A L A はANCの2名の代表を招き、寄付を募り300万円集まりました。

同年、ORタンボが日本を訪問し、日本政府に南アフリカへの経済制裁を強化するよう要請しました。滞在中に、J A A L A とORタンボの会合が行われ、ORタンボは東京にANC事務所を開設したいと進言しました。日本は先進国の中で唯一事務所を持っていなかったのです。

J A A L A は「南アフリカの人々のための連帯と支援基金」を立ち上げ、ANC事務所を開設し、運営し、またアジアの他の地域でも反アパルトヘイト運動を支援するためでもありました。

1998年、J A A L A はANCの事務局長アルフレッド・ンゾおよび外務省と話し合いました。1988年5月、東京都中野区にANC東京事務所が開設し、ジェリー・マツィーラが代表になりました。基金6百万円にのびりました。J A A L A はマツィーラ氏を強くサポートし、日本国中をまわり、積極的に講演し、人々に話、署名運動を行いました。

先にも述べたように、1990年、マンデラは刑務所から釈放されました。そのころ、「南アフリカの人々のための連帯と支援基金」は3千万円にまで達していました。日本政府がマンデラ氏率いるANCを招待した際、ANC東京事務所の副会長であるJ A A L A はANCの文化団体 AMANDLA（アマンドラ）を招聘し、国内24都市にて公演を行いました。

興行は大きな成功をおさめ、外務省、新聞各社、テレビ局、在日本アフリカ諸国の大使館、ANC東京事務所、および影響力のある人々の協力により7万人以上の人々を魅了しました。

2012年2月、秋庭氏はANCの100周年記念行事に招かれ、同年の10月26日、ジェイコブ・ズマ大統領（当時）からコンパニオン・オブ・ORタンボ勲章（シルバー）が授与されました。

皆様、

1990年、マンデラは2月11日に無条件にて釈放されました。元妻である故ウィニー・マディキゼラ・マンデラと数名のANC幹部と共に大勢の人々とメディアの前に出てきました。

1990年5月、マンデラは多民族のANC代表と共に予備交渉に臨みます。交渉はグルート・シュール議事録になりました。それにより政府は非常事態宣言を解除しました。

1991年、ネルソン・マンデラは19の政党から228名の代表が参加した、ヨハネスブルクのワールド・トレードセンターで行われたCODESAの中心人物となりました。

1992年5月、CODESA 2が開催されました。1993年、南アフリカと世界を平和と和解に促進した功績により、マンデラとFWデクラークはノーベル平和賞を受賞しました。

1990年の釈放後

マンデラはアフリカ中を訪問し、日本を含む世界中の支持者や政治家と会いました。名誉と尊敬の人として、マディバは国、政治家、民間、経済界の人々に、アフリカ大陸で、ヨーロッパで、アジアで、アメリカで表敬訪問をしました。

彼は全ての人々に、彼らの連帯とアパルトヘイトとの闘い、そして抑圧的な少数民族差別政府を孤立させるために役割をなしてきたことに感謝しました。

1994年4月27日南アフリカ総選挙

ネルソン・マンデラは南アフリカ共和国で民主的に選ばれた大統領になりました。マンデラはANC主導による国家統一政府を率いました。1994年12月、マンデラは『自由への長い道』を書きました。刑務所内で書き溜めた原稿をもとにした自伝です。皆様全員にこの本を読むことをお勧めいたします。とても刺激を受けます。

国の和解

ネルソン・マンデラは国の和解が大統領府の優先課題だと考えました。

- ・虹の国は統一と多様性を象徴する

- ・マディバ政権は白人と黒人社会の間で富とサービスが大きくかけ離れてしまった国を引き継ぎました。

国際関係

- ・マンデラは南アフリカの将来の外交関係は人権が国際関係の礎になると考えました。
- ・南アフリカの例に続き、マンデラは他の国々にも外交と和解により紛争を解決するよう促しました。
- ・1998年、マンデラは非同盟運動の事務局長に任命されました。

2018年9月24日、第73回総会の総会討論が始まる前日、総会はネルソン・マンデラ平和サミットになりました。ネルソン・マンデラ平和サミットは、ネルソン・マンデラ生誕100周年にちなみ、世界平和に基づくものです。この平和サミットは、世界のリーダーに彼らの世界平和、紛争回避、紛争解決、平和構築、人権の促進と保護に率先して取り組むという約束を再認識する機会を与えています。この平和会議は政治宣言も採択し、ネルソン・マンデラの価値をあらためて認識します。

ニューヨーク国連本部の、ネルソン・マンデラ元大統領の等身大銅像の除幕式において、2018年9月24日の南アフリカ・ヘリテイジ・デーを祝う日でもありましたが、ラマポーザ大統領は次のように結論付けました。「マンデラの時代の一連の哲学と実践は、南アフリカが規模や影響や支援に関わらず、世界中の国々と友好的な兄弟家計と経済関係を望み続けるということです。」

また次のように主張しました。「私たちは、国際的な管理のための最も持続可能な効果的なアプローチとして、ルールベースの多国間主義にしっかりと約束しており、発展途上国のニーズと関心が、国際的な議題の最上位に位置づけられることを唱え続けます。」

皆様、

1999年、ケープタウンにおける宗教会議の感動的なスピーチからの引用です。「政府や社会機関は、私たちの時代の発展の大きな課題を自ら満たすことはできません。

パートナーシップは、精神的、共同的要素の上にある社会の広い範囲で必要です。宗教は貧困や疎外、女性や子供への虐待、自然環境への破壊的無視への挑戦に取り組むときに力強いパートナーとなることがあります。」

ネルソン・マンデラは、明らかに信仰の人でありました。自分の信念を守りながら、和解というライフワークに取り組みました。

マンデラの普遍的な魅力が、共産主義者から真のリベラルな人たちまで多くの尊敬を集めています。

しかし、マンデラと宗教との関係は、常に重要でした。彼はさらに付け加えました。「教会がなければ、宗教学校がなければ、私は今日ここに存在していません。宗教は私たちが行ったすべての要因のひとつでした。」

政界から引退

- ・ 1997年、ANC政党会議にて、マンデラはANC代表から退く。
- ・ 1999年6月に引退、マンデラは家庭人となります。ヨハネスブルクと故郷のクヌの家で。
- ・ 2011年2月、マンデラは呼吸器感染のため入院
- ・ 長引く呼吸器感染に苦しんだあと、マンデラは2013年12月5日に逝去。享年95。

「貧困を克服することは慈善活動の仕事ではなく、正義の行為です。奴隷制度やアパルトヘイトのように、貧困は自然ではありません。それは人により作られたものであり、人間の行動によって克服され、根絶されることができます。ときにはそれが世代の肩に大きくかかることもあります。あなた方はその偉大な世代になることができます。あなたの偉大さを咲かせましょう。」

これは、2005年2月3日にロンドンで開催された「貧困を過去のものにしよう」キャンペーンにおけるネルソン・マンデラの言葉です。

本日はネルソン・ロリシュラシュラ・マンデラについて100周年という機会に語らせていただき、皆様とともに祝うことができますことを深く感謝申し上げます。

ありがとうございます！